

基本方針	分野区分	事業名	担当課	実施目的	事業等の概要	経費合計(円)	成果と課題	総合評価	今後の方向性
Ⅲ 健康で明るく豊かな生活を送ることが出来るスポーツ	1. スポーツ活動の普及・振興 「市民ひとり1スポーツ」の定着	スポーツ振興補助事業	スポーツ・生涯学習課	各実施団体への補助等により、大会や事業を実施することで市民へのスポーツの場を提供し、市民の健康増進とスポーツ精神の高揚を図ることを目的とする。	全日本大学選抜相撲十和田大会実行委員会・とわだ駒街道マラソン大会実行委員会等の3団体に負担金として支出。 選抜高校相撲十和田大会実行委員会・市体育協会・市地区体育振興会連合会・中学校体育大会選手派遣事業等の7団体に補助金として支出。	16,752,000	○成果 マラソン大会や市地区体育振興会連合会等のイベントは、スポーツに親しむひとつのきっかけとなっている。 ●課題 各補助団体が、自主自立の精神で、独立採算・受益者負担だけで運営できるように指導・監督する必要があるが、難しいのが現状である。 また、10団体のうち、6団体の事務局を行政で運営しており、これら事務局の自主運営を指導する必要がある。	A	継続
	市総合体育大会	スポーツ・生涯学習課	「市民ひとり1スポーツ」を目指し、市内全地区・各層住民を対象とした総合体育大会を開催することにより、スポーツ人口の拡大と住民の体力作り・健康づくりを推進する。	【前期競技】7種目 グラウンドゴルフ・サッカー・ソフトボール・バドミントン・ゲートボール・パークゴルフ・陸上競技 【後期競技】7種目 ミニバレー・卓球・バレーボール・バスケットボール・ボウリング・インディアカ・ソフトバレーボール	329,897	○成果 大会出場を目的に地区住民のまとまりが出来、地域社会の形成が図られている。 参加者の声を広く聴くため、競技終了後に提出任意のアンケート調査を実施した。これを基に、実行委員会にて規定を見直すべき競技を選定し、代表者会議にて当該協議の規定見直しを行った。その結果、前回大会で棄権した地区からの参加があった。 ●課題 市内14地区体育振興会、全競技に全地区参加が理想だが、参加地区が半数にも満たない競技もある。全体的に参加者が固定化しており、陸上を除く既存競技では新規参加地区も見られなかったことから、競技自体の見直しも必要になってきていると感じる。 十和田湖マラソンと日程が重複している。	A	継続	
	スポーツ少年団	スポーツ・生涯学習課	スポーツ少年団活動を通して、心身ともに健全な青少年の育成を図るとともに、団員個々の資質や技量の向上を図りながら、次代を担う青少年の育成を目指すための諸事業を実施する。	主な事業(参加人数) ・軟式野球十和田地区大会(65人)、新人大会57人) ・スポーツ少年大会、体力テスト(101人) ・十和田市スポーツ少年団総会(44人)	1,269,818	○成果 各事業とも、本部委員、参加団の協力のもと事故等無く終了することができた。 保護者及び指導者を対象とした母集団研修事業等は実技も行い効果的なものになったほか、費用補助により指導者の研修参加を促進し、指導者の育成が図られた。 ●課題 交流事業であるスポーツ少年大会等は、32団体内8団体の参加と、全体的な行事としては参加団が少ないため、各団の協力が必要である。	A	継続	
	選抜高校相撲十和田大会	スポーツ・生涯学習課	全国から高校相撲の選手を招き、夏のイベントとして定着したこの大会を通して相撲の街十和田市を全国にPRするとともに、青少年の健全育成及び市の活性化を図る。	全国から選抜された高校40校(うち青森県からは6校)の選手約160名が参加して開催され、夏の恒例イベントとして、多くの市民が観戦に訪れている。	4,587,801	○成果 一時は上屋根の耐震性の問題から大会休止も危ぶまれたが、解体工法の工夫や大型仮設テントの設置により、大会を継続することができた。 開会式では、十和田水神雷太鼓の演奏で全国から集まった選手役員を歓迎し、相撲大会のムードを盛り上げてくれた。 ●課題 上屋根を撤去したことにより、進行状況や勝敗を周知するモニターが設置できなくなった。 少子化に伴う相撲競技人口の減少、また上屋根が撤去されたことから悪天候による減の影響が大きくなったことも起因して、観客の入場者数も減少傾向にあり、かつての活気が失われている。	A	継続	

基本方針	分野区分	事業名	担当課	実施目的	事業等の概要	経費合計(円)	成果と課題	総合評価	今後の方向性	
Ⅲ 健康で明るく豊かな生活を送ることが出来るスポーツ	1. スポーツ活動の普及・振興 「市民ひとり1スポーツ」の定着	全日本大学選抜相撲十和田大会	スポーツ・生涯学習課	全国から大学相撲の優秀選手を招いて、夏のイベントとして定着したこの大会を通して相撲の街十和田市を全国にPRするとともに、青少年の健全育成及び市の活性化を図る。	十和田市夏祭りの行事として定着している本大会に、全日本学生相撲連盟から選抜された12大学及び個人戦のみ参加の4校を加えた全16大学約100名の選手が、母校の名誉と自身の榮譽のために熱戦を展開し、約900人の観客を魅了した。	4,010,546	○成果 翌日に開催される高校相撲とは一味違った迫力のある試合が展開される大学相撲大会を開催することで、県出身選手の成長と活躍を地元ファンに見ていただくことができた。 十和田大会は、全国相撲関係誌にも主要大会として、年間行事や結果が紹介されている。 ●課題 事業継続には、主管する青森県相撲連盟上十三支部と連携した収入の増と大会当日スタッフの確保が必要である。 固定経費で支出の抑制が困難な状況の中、入場券販売数が低迷しており、財源不足への対応が急務である。	A	継続	
		とわだ駒街道マラソン大会	スポーツ・生涯学習課	マラソンを通して、「市民ひとり1スポーツ」の普及振興と健康増進・参加者相互の親睦を深める。また、官庁街通り(通称「駒街道」)を広く紹介し、市の活性化を図る。	秋のスポーツ行事として定着しており、市民、市外・県外のマラソン・ジョギング愛好者が日本の道百選に選ばれた「駒街道」をメインコースとした本大会を通して、参加者の生涯スポーツの普及・振興を目的としている。	5,733,715	○成果 前年度参加者から要望のあった各種目の正確な距離については、大会前に距離計測を行い正確度を増すことができた。また、救護体制についても新たに救護係を設け、本部に医師を配置するなどして救護体制の強化を図ることができた。 ●課題 ハーフ種目については参加者数がわずかながら年々減少している。ハーフ種目は競技性が高く、参加者の要望も多いため、参加者が増加する程の満足度の得られる大会とするにはコースの整備等課題は多い。	A	継続	
		県民駅伝競走大会	スポーツ・生涯学習課	選手選考会を実施して、選手強化と合同練習会を開催して、選手相互の協調性と連携を養成し、大会に参加して当市のスポーツ振興を図る。	主な事業 ・一般選手選考会 ・市内中学校選手選考会 ・強化練習会、選手選考委員会、合同練習会 ・本大会		442,081	○成果 冬期間合同練習会を開催し、チームの団結力が高まり、また、選手強化が図られた。 総合8位、市の部6位と、前年より1つ順位を落としたものの、入賞を果たした。 ●課題 中学生の有力選手が、部活動優先等のため、選考できないことがあり、学校の顧問等の理解、協力が必要だ。	A	継続
		スポーツいきいき健康づくり事業	スポーツ・生涯学習課	「市民ひとり1スポーツ」を掲げ、スポーツ振興のため市民が気軽に楽しめる軽スポーツ教室や大会を開催することにより、各地区での定着を目指し、市民の健康増進と競技者同士の親睦を図る。	軽スポーツ教室として室内ベタンク、ミニバレーを行い、教室の成果等を図るため、スポーツ大会を行った。 また、地区巡回教室を1回行った。		184,208	○成果 昨年に引き続き室内ベタンク教室を開催し、競技者人口の増加、定着が見られた。次年度も継続し、一層の競技者の増加及び定着を図りたい。 ●課題 地区巡回教室の開催回数が昨年より少なかったため、各地区で開催できるよう地区体育振興会連合会と連携を図っていく。	A	継続
		市民屋内大運動会	スポーツ・生涯学習課	「市民ひとり1スポーツ」を目指し、全地域、各層の住民を対象とした市民屋内大運動会を開催することにより、スポーツ人口の拡大と住民の体力作り、健康づくりを推進することを目的とする。	団体競技6種目と個人競技4種目を行い、参加者数は9地区、約380人であった。団体種目については市内地区対抗形式で行い、個人種目については地区に関係なく誰でも参加できるようにした。また、閉会式終了後にはお楽しみ抽選会を行った。		130,992	○成果 スポーツ推進委員と各地区体育振興会推薦の実行委員との連携がよく、大会運営がスムーズに行われた。 小学校と連携して参加する地区もあり、地域のつながり強化の一助となっている。 ●課題 14地区のうち、参加は9地区380人と減少傾向にあることから、多数の市民が参加できるような、新種目の導入を検討する必要がある。	B	改善

基本方針	分野区分	事業名	担当課	実施目的	事業等の概要	経費合計(円)	成果と課題	総合評価	今後の方向性
Ⅲ 健康で明るく豊かな生活を送ることが出来るスポーツ	1. スポーツ活動の普及・振興 「市民ひとり1スポーツ」の定着	地区体育振興会連合会事業	スポーツ・生涯学習課	市内各地区体育振興会の連携のもとに、スポーツを通じて各地区住民の健康増進と相互の親睦を図るとともに、「市民ひとり1スポーツ」を目指し活力あるまちづくりを推進する。	・十和田市総合体育大会 前期 7月9日(延べ825人参加)、後期 11月12日(延べ574人参加) ・市長旗争奪小学生野球大会 10月21日、11月3日(94人参加) 5チームのうち、Aブロック5チーム、Bブロック2チームで競技 ・市民屋内大運動会 12月3日(380人参加)	1,269,494	○成果 学校体育施設開放事業の夜間利用者にとって、市総合体育大会での入賞が一つの目標となっており、地区住民内での連携や定期的な運動機会の提供の一助となっている。 ●課題 少子化に伴いチームの合併や参加者減少が進む市長旗争奪小学生野球大会について、連合会において主催する意義を再考し、継続については検討が必要である。 市総合体育大会について、全競技全地区参加が最大目標であり、その達成は非常に難しいが、引き続き参加を呼び掛けていくとともに、競技方法などを検討していきたい。	A	継続
		学校体育施設開放事業	スポーツ・生涯学習課	一般市民が各種のスポーツ活動を実践できる場所を確保するため、学校体育施設を開放し、スポーツ活動の普及とグループの育成に努め社会体育の振興を図る事を目的とする。	今年度は、市内小学校14校、中学校7校で体育館と校庭を含め延べ3,618回、合計62,014名の利用があった。利用種目については、バスケット・バドミントン・卓球など各地域にあった種目で実施されていた。 その他、地域文化活動や伝統芸能など地域の交流活動としても夜間の体育館など有効利用されています。	0	○成果 スポーツ少年団、地区のスポーツ団体等に利用され、活動場所の確保及び活動の普及が図られ、効果的な事業である。 利用者はスポーツ団体だけに限らず、よさこいソーラン・伝統芸能など地域の文化等伝承の活動などにも利用されており、大変有意義な活用方法であると感じた。 ●課題 少人数での体育館利用が見受けられることから、なるべく10名以上の利用となるよう、各校運営委員会に依頼したい。	A	継続
		学校プール開放事業	スポーツ・生涯学習課	児童・生徒及び幼児の安全な水遊び場所の確保、並びに市民の夏季スポーツの機会と場所を提供するため、学校プールを開放し、夏季スポーツの振興を図ることを目的とする。	市内小学校5校にて開放。(実施回数は各校概ね30回程度) 開放中事故等に対応するため救急講習会を開催し、事故防止に努めた。	1,069,038	○成果 開放期間中は監視員の配置により、学校プール内での大きな事故も無く無事開放期間を終了することができた。 夏休みのこどもたちの安全な遊び場とスポーツの機会を与えるという面においても有効性がある。 機械器具の取扱い講習を行い、プール薬品の引渡しを行うなどのほか、監視員は救命講習修了等を義務づけ事故対策に重点をおいて実施されている。 ●課題 監視員は地区住民等であることから、開放期間中の事故防止及び万が一の事故対応が徹底されるように努めていく必要がある。	A	継続
		体育、スポーツ賞に関する表彰	スポーツ・生涯学習課	十和田市民(就学のため市外に居住している者を含む。)並びに市に所在する団地で体育、スポーツの振興に功績のあった者及びスポーツ活動において優秀な成績を修めた者を顕彰することを目的とする。	この表彰は永年に渡り社会体育の振興、選手の養成および各種目スポーツ団体の育成指導等に寄与した指導者や、県大会以上の大会において各競技で優秀な成績を修めた一般、大学生、高校生に贈られる賞で、市内の競技団体、高校、大学へ該当者、該当団体の推薦を依頼し、推薦された方々および競技団体について市スポーツ振興審議会に意見を求め、教育委員会が受賞者を決定する。	698,646	○成果 十和田市体育、スポーツ賞に関する表彰式では昨年と同様に多数の受賞者が表彰された。次年度も市のスポーツ振興と発展を願い、顕彰事業として継続したい。 ●課題 受賞者に対して式典への参加者が少ないため、表彰に対する希薄さが懸念される。また、チャンピオンスポーツのみでなく軽スポーツ等も表彰対象としていることが、受賞者数の増加に繋がりに、同様に表彰に対する希薄さが懸念される。	A	継続

基本方針	分野区分	事業名	担当課	実施目的	事業等の概要	経費合計(円)	成果と課題	総合評価	今後の方向性
Ⅲ 健康で 明るく豊 かな生活 を送るこ とが出来 るスポー ツ	2. スポーツ指導体制の整備充実	スポーツ指導者の育成・確保	スポーツ・生涯学習課	スポーツ活動において、適切な指導・助言のできる指導者の育成・確保に努めるとともに、市民同士が交流しながら気軽にスポーツに楽しむことができる環境づくりを推進する。	スポーツ教室を通じて、地域におけるスポーツ活動のリーダーとして活躍できる人材を育成する。 生涯スポーツ推進員を委嘱し、各地区のスポーツ活動の実施及び各種大会等スポーツ活動への参加を図る。 スポーツ少年団の育成者の研修参加費を助成し、青少年のスポーツ指導者の育成を図る。	0	○成果 年齢等を問わず気軽に楽しめるニュースポーツ、軽スポーツの教室を実施し、地域でのスポーツ活動の実施や普及が図られるようにしている。 研修、講習の実施及び参加を促進し、指導者の育成が図られた。 ●課題 地域等へ講師を派遣して軽スポーツ等を行う巡回教室の回数が少ないため、巡回教室の活用を促し、地域における軽スポーツの実施や指導をできるリーダーの育成をより図っていく必要がある。	A	継続
		十和田市スポーツ推進委員協議会	スポーツ・生涯学習課	委員相互の連携を図るとともに、市民のスポーツ活動の普及促進に寄与することを目的とする。	市民へスポーツの理解を深め、生涯スポーツ・軽スポーツの普及推進に努めるとともに、指導助言及びスポーツ活動を促進する。 いきいき健康づくり事業、各種大会・講習会への運営協力並びに講師として指導にあたった。(いきいき健康づくり事業:指導回数9回/延べ230人、参加者194人)	466,564	○成果 いきいき健康づくり事業、各種大会・講習会・市総合体育大会・駒街道マラソン大会等への大会運営協力は協力者の連携がよく運営をスムーズに行うことができた。 ●課題 一部の決まったスポーツ推進委員のみが意欲的に活動するのではなく、ひとりひとりが積極的にスポーツの普及、推進に参加できるよう、研修会等への参加を促し、意識の向上を図らなければならない。	A	継続
	3. 体育施設の管理運営、整備の充実	体育施設の管理運営、整備	スポーツ・生涯学習課	指定管理者導入による利用者サービスの向上及び効率的、効果的な施設の管理運営、並びに施設の修繕、備品購入・更新等により施設機能の維持、長寿命化及び安全安心な利用に資することを目的とする。	体育施設等について、指定管理者が基本協定、年度協定、関係法令・例規、業務基準書等に従って管理業務を行った。(十和田市体育協会、十和田市サッカー協会、十和田湖ふるさと活性化公社) 施設の修繕、備品購入・更新等を行い、施設の計画的整備、充実に努めた。	0	○成果 指定管理者と連絡・連携を密にするほか、施設の状況把握に努め、必要な修繕、整備が行われている。 指定管理者のモニタリングの実施等により利用者サービスの向上、効率的な管理運営が図られ、指定管理者による適切な管理運営がされている。 ●課題 老朽化等により修繕や備品・設備等更新の必要性が増えてきており、経費も大きいいため、計画的に整備していく必要がある。	A	継続